

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1475号 1999年01月04日(月)

《 no one knows what will happen on Monday 》

1999年の市場は、例年になく緊張の中での幕開けとなりました。

1998年大晦日の真夜中に欧州連合（EU）蔵相理事会が決定した新通貨ユーロと参加欧州各国通貨との交換レート（conversion rates、後に詳述）を受けて、元旦の早朝から日本を含めて世界中の金融機関ではコンピューター・プログラムの書き換えなどの作業が行われた。4日の本格的な取引開始を控えてです。

このニュースレターは日本時間の4日の早朝に作成していますから、ユーロのシステムや取引が全体としてうまくスタートできるかどうかはまだ不明の段階。欧州の初取引は日本時間の4日午後から。さらにニューヨークを回り、地球を一周してこないと結果は出ない。個々の金融機関や、もっと大規模には国単位、市場単位ではリハーサルが行われていますが、システム全体の稼働は4日の本番待ちというわけ。

その準備の為に、例えばフランクフルトではドイツ銀行だけでシフト制を敷きながら元旦から2日の土曜日、3日の日曜日と3200人の職員を出勤させて交換レートの打ち込みやソフトウエアへの書き込み、コンピューターの動作テストなどを行った。ユーロには参加しないものの、引き続き欧州最大の金融センターになるロンドンでは推定で30000人が元旦、土日返上でオフィスに出社して準備を整えたと言われる。この間の事情は日本でも程度の差こそあれ同じで、多くの関係者は正月三日間に出社をして4日朝を迎えた。

欧州蔵相理事会が大晦日の真夜中に EU 本部で決めた参加11カ国通貨のユーロへの交換レート（conversion rates）は以下の通りです。（インターネットの HP は = <http://europa.eu.int/eurobirth/rates.html>）

- 1ユーロ = 1.95583 ドイツ・マルク
- 1ユーロ = 6.55957 フレンチ・フラン
- 1ユーロ = 1936.27 イタリア・リラ
- 1ユーロ = 166.386 スペイン・ペセタ
- 1ユーロ = 2.20371 オランダ・ギルダー
- 1ユーロ = 40.3399 ベルギー・フラン
- 1ユーロ = 0.787564 アイリッシュ・パント

1ユーロ = 40.3399 ルクセンブルク・フラン
1ユーロ = 13.7603 オーストリア・シリング
1ユーロ = 200.482 ポルトガル・エスクード
1ユーロ = 5.94573 フィンランド・マルカ

レート算出時に採用した相場によると、1ユーロは対米ドルでは 1.16675 ドル、対円では 132 円 80 銭となった。主要国通貨間の取引は 4 日開始だが、既にドルとユーロとの外為取引については 1 月 1 日にインドの外為市場で最初の大口取引が報告されている。元旦のウォール・ストリート・ジャーナルが報じたところによると、インドの国営銀行と一部の顧客が 1 月 1 日に 1 ユーロ = 1 . 17 ドルをやや上回る相場で 5 0 0 万ユーロを買ったという。第一号の取引は若干ユーロ高・ドル安の相場だったことになる。

ユーロ高のトレンドは、4 日早朝のシドニー市場でも同様のようです。1 ユーロはビッド、オファーで「\$1.1742-47」になっているという。これは 1 2 月 3 1 日の \$1.16675 という値決めレートに比べてユーロ高・ドル安です。ただし本格的な相場は欧州市場が始まってからということになりそうです。対円は 1 3 3 円 2 0 銭 ~ 3 0 銭。これもユーロ高になっている。

《 a milestone in European history 》

多くの懐疑論があった中でもとにかくユーロがスタートしたことで、欧州は新たな時代を迎えたと言える。単一通貨を持つ人口 2 億 9 2 0 0 万人（アメリカは 2 億 6 0 0 0 万人、日本は 1 億 2 4 0 0 万人）を持ち、GDP 合計で 8 . 5 兆ドル（同 7 . 1 7 兆ドル、5 . 0 9 兆ドル）の一大経済圏が誕生した。ユーロ欧州は世界の GDP の 2 0 %、世界貿易の 1 8 % を占める。

ユーロ圏内では既に、自動車メーカーなどを中心に販売価格統一の動きが本格化している。これまで欧州各国で別個の価格を設定してきたが、ユーロの誕生によって割高・割安が鮮明になるため。価格は徐々に低い方に収斂すると見られ、価格競争に付いていけない企業の淘汰は必至で、日本を含めて世界の産業界は欧州全体を視野に入れた生産・販売網の構築を迫られる。9 8 年に増加の兆しを見せた国境を超えた合併・買収のうねり（史上最高になった）は、9 9 年にユーロの誕生、欧州における巨大経済圏の誕生で一段と高まることになる。

価格面では具体的に、ダイムラー・クライスラー、独 BMW、仏ルノーなど大手自動車メーカーはユーロ誕生に合わせ、欧州域内で 10% 前後は開きのある販売価格差の縮小に着手を開始する。向こう 1 年 1 年半の間にほぼ価格統一を実現したい考え。価格引き下げ圧力が高まる公算が大きく、この間の事情は自動車産業ばかりでなくあらゆる産業で同様。欧州の企業ばかりでなく欧州を輸出市場としている世界の企業にとっても競争の時代が始まったと言える。もっとも日本などの輸出企業にとっても、いままで数力所に置いていた欧

州の複数拠点の統合や、為替手数料の削減などメリットは大きい。

ユーロを推進した欧州の政治家達は凱歌を挙げている。ドイツのシュレーダー首相は、

「もし戦後がベルリンの壁の崩壊で9年前に終わったとしたなら、われわれの将来は1999年の1月1日に始まる」

と述べている。今のところユーロのスタートはシステムとしても相場としても順調で、欧州の政治家達も安堵していると思われる。しかし、強すぎるユーロは欧州の政治家達としても歓迎は出来ない。欧州全体として景気が下降線に有る中で、通貨にはあまり強くなって欲しくないため。しかし下げても困るので、欧州サイドとしては当面は緩やかなユーロ高を歓迎するでしょう。緩やかなユーロ高は、アメリカの利害とも一致します。市場もまずユーロの上値を試すでしょう。

昨年末の当ニュースレターが予想したとおり、円はかなり上値を追ってきました。年末のニューヨーク市場では112円台。日本の長期金利の水準、アメリカの貿易赤字に対する姿勢が今年の円相場を左右しそうです。

《 have a nice new year and week 》

正月は如何でしたか。今年は例年よりも人の移動が少なかったような気がします。景気の問題もありますが、休みが短かったことが大きかったのではないのでしょうか。今年は年末・年始が短すぎた。土日が4日、5日になるような年が最高です。急用が出来て30日に東京から大阪に行きましたが、苦勞せずに切符を手に入れられました。それにしても、中央線は事故の多い線です。中央線の沿線に住む人間としては、「どうにかならんか...」という感じですが。

1999年。切りが悪いと言えば悪いのですが、2000年のスタートにあと一年を切ったこの年。ユーロがスタートし、コンピューターの2000年問題は既に前哨戦として顕在化し.....と挙げればいろいろありそうですが、まあ一番大事なのは「健康」ですかね。それぞれの方にとっても、日本経済にとっても。

ユーロについては、欧州連合のインターネット上のホームページを眺めていたら、非常に良くできたユーロへの電卓型のコンバーターを見つけました。ユーロ建てで数字を入れ、それぞれ欧州の国の国旗をクリックすると欧州各国建ての通貨で表示されるのです。これはなかなか便利です。 http://europa.eu.int/eurobirth/index_en.html# にありますから、利用されると良いと思います。

また為替のクロスカレンシーのテーブルを見ると、マルクとかフランス・フランとか馴染みだった通貨が消えて、一人 EURO が欧州の主要国を代表している。ディーリング・ル

ームには今までマルク・円ディーラーなど欧州関連通貨のディーラーが複数いたのですが、これからはユーロ・円のディーラー一人で用が済む。しかし最初は顧客が従来の通貨出来たり、ユーロで来たりと多少混雑するでしょうね。まあ慣れの問題でしょうが。

とまり、「多事」となるであろう1999年。読者の皆様にとって良い一年となることを祈念いたします。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（03-5410-7657 E-mail ycaster@gol.com）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》